





審査結果報告書

2022年1月28日

主査	氏名	隈元 雄介	
副査	氏名	佐々木 治一郎	
副査	氏名	木田 光広	
副査	氏名	堺 隆一	

1. 申請者氏名 : DM18019 蓼原 将良

2. 論文テーマ :

Clinicopathological significance of BRCAness in resectable pancreatic ductal adenocarcinoma and its association with anticancer drug sensitivity in pancreatic cancer cells
(膵管癌における BRCAness の臨床病理学的背景と膵癌細胞株を用いた BRCAness と抗腫瘍薬剤感受性の解析)

3. 論文審査結果 :

膵管癌は5年相対生存率が約10%であり、依然予後不良の癌の代表格である。近年、癌患者に対する遺伝子解析の研究が進み、膵がん患者においても遺伝子異常に基づく化学療法を選択など個別化治療戦略が予後を改善させると期待されている。本研究では、膵癌関連遺伝子として注目されている BRCA (Breast cancer susceptibility gene) 1/2 変異と同様の組み換え修復機能不全を呈する BRCAness 遺伝子変異に注目し、膵癌切除検体と膵癌細胞株を用いてその意義を検討したものである。先行研究が少なく、BRCAness の臨床病理学的意義と抗癌剤感受性の特徴について基礎・臨床両面から検討した大変貴重な研究である。質疑応答では、検出法である MLPA 法の質的保障、従来のシーケンサー法による評価の差違、臨床応用の展望などの質問に対し、的確な回答を行っており、学位授与に相応しい研究業績であると委員全員が認定した。

以上。